

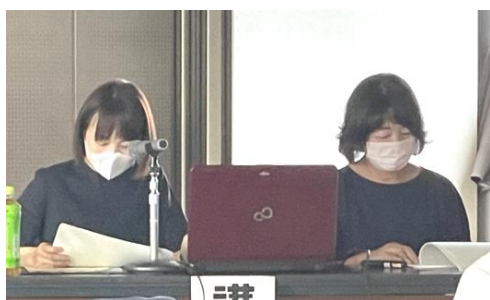
# まなび通信

- ◆ 最上教育事務所研修通信 第 6 号
- ◆ 令和6年1月18日
- ◆ 最上教育事務所指導課

## 令和5年度の最上地区特別支援教育研修会

### 第1回（6月）

特別支援教育コーディネーター研修と兼ねて開催しました。講師には、新庄養護学校相談支援部の舟生繭子先生、樋渡真智子先生をお迎えし、「特別支援教育コーディネーターの役割～個別の教育支援計画・指導計画の活用と巡回相談の実際から～」について御講義いただきました。



### 特別支援教育コーディネーターの役割

- 1 学校内の児童等の**実態把握**と**情報収集**の推進
- 2 校内関係者や関係機関との**連絡調整**
- 3 各学級、担任への**支援**
- 4 巡回相談員や専門家チームとの**連携**

### 個別の教育支援計画・指導計画

～新庄養護学校での活用例～

#### ○個別の教育支援計画

**毎年手書きで修正・加筆**して、3年おきにデータを更新。支援の経歴・変化がわかるようにしている。

#### ○個別の指導計画

**各教科、学習指導要領を参照しながら3観点の目標**を立て、**評価時は複数の教員で評価会**を行う。個別の指導計画を通知表として活用する。

### 引き継ぎたい大事な情報

#### ○個人のプロフィール

- ・診断名（障害の特性や留意事項）
- ・服薬状況
- ・手帳の有無
- ・実態や支援の状況
- ・合理的配慮
- ・関係機関

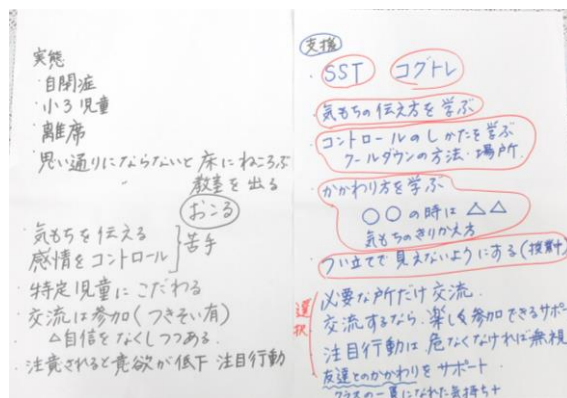
#### ○これまでの学習状況



後半の演習では、事例をもとに児童生徒の実態を書き出し、提供可能な合理的配慮（〇〇したらできる）や支援の手立てを考えました。



### 参加者がまとめたワークシート



### 【参加者された先生方の感想】

- ・先生方との会話を通して、とても勇気をもらいました。先生方のアイデアを、自分のクラスでもやってみようと思います。
- ・対応について教員間で密に共通理解を図っていくことが大切だと学びました。本人の意欲を尊重し、よさを伸ばしていきたいです。

事例は、インクルDB

「合理的配慮」実践事例データベース」より  
(国立特別支援教育総合研究所)

<https://inclusive.nise.go.jp/>

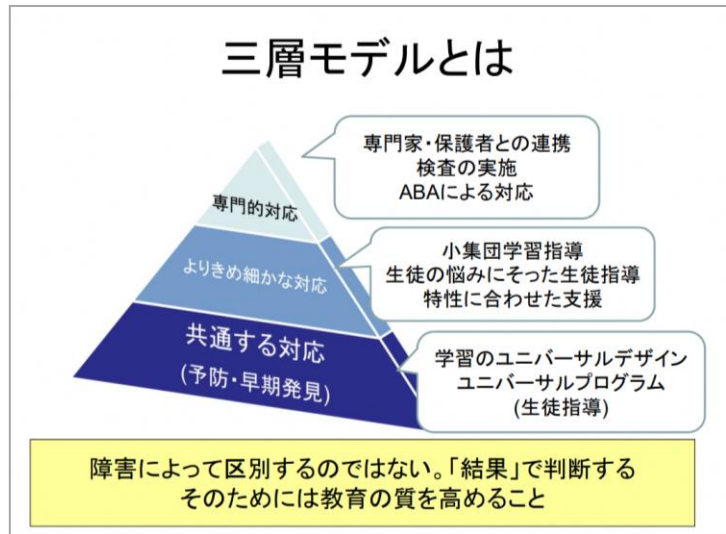


## 第2回 (9月)

講師に、新潟大学大学院の長澤正樹教授をお招きし、「インクルーシブ教育の推進—通常の学級における特別支援教育実施に向けて—」をテーマに御講義いただきました。



長澤研究室ホームページ  
(特別支援教育・発達障害の情報、  
講演会の資料など)



### 通常の学級で、特別な教育を

近年の特別支援教育は、三層モデルの考え方が主流となっています。1層目は、**通常の学級の全員を対象に「共通する対応」**を行います。バリアを減らし、全ての子どもがわかりやすく参加できるような学習環境、つまり「**学習のユニバーサルデザイン**」が基本となります。そこで結果を出せなかった児童生徒に対しては「よりきめ細やかな対応」を、またそこで結果が出せなかった児童に対しては「専門的対応」を行っていくという考えです。**どの場で学んでも子どもの能力を最大限伸ばすのが教育の役目であり、インクルーシブ教育のポイント**であることを御教授いただきました。



### 対応のポイント

- 自己理解・周囲の理解
    - 特性の理解と受容 対応には医師の判断も必要です
    - 本人のつらさを理解する努力を
  - 合理的配慮 教師の熱意だけでは子どもは教えない
    - 本人中心の個別計画作成と実行
    - ICTの活用 対話と一緒に考え実行
  - 教育の場の提供
    - 特別支援学級、通級指導・適応教室
    - 指導が生かされる生活の場 思い切った対応を考え、実行。リモート授業
- Niigata Univ.-Nagasawa Labo.

### 個別計画はドラマのシナリオ

- ・ 注目欲求から承認欲求へ 誰もが(教室という舞台の)主役になりたい
  - ・ 子どもが主役、あなたは引き立て役 こどもの生活に関心を示し、期待する。教えてもらう、助けてもらうこと
  - ・ ドラマにシナリオは必要不可欠 個別計画は、こども主役のドラマの脚本・シナリオ
  - ・ ドラマをハッピーエンド(卒業)まで続けましょう 定期的な振り返りで、成長を認め、喜びを共有すること
- Niigata Univ.-Nagasawa Labo.

### 不登校への適用

- 対話 スクールカウンセラー
  - 気づきを促す 家にあるプリント・ディレクト、学校のプリント・心配なこと
  - 生徒の自覚(目標) 部分登校ならでもかも
  - 実行の具体策 居場所の確保、人に合わない工夫、学習支援など
  - 気づきを促す 週2登校でき、教師と1対1で話した(楽しい)
  - 生徒の自覚 今までの生活を置き換えるんだ!
- 現状を冷静に俯瞰し、できることを自己選択  
一歩前に進むとともっと先に行ける可能性を感じ取る
- Niigata Univ.-Nagasawa Labo.

### 【参加された先生方の感想】

- ・ 特別支援は特別なものではなく、当たり前権利であることを学校が発信していくこと、子どもも支援を求められるようになることが必要だと感じました。
- ・ 通常学級にも特別支援学級にも共通して指導できる内容がたくさんありました。合理的配慮は本人が望むこと、本人が認めている(納得している)ことが大事だと知り、勉強になりました。
- ・ クラスの子どもたちを思い浮かべながらお話を聴かせていただきました。子どもたち一人ひとりの思いをよく聞き、受け止め、力を付けていきたいと思えます。



研修会を通して、先生方が新たな学びを得るとともに、参加された先生方との情報交換がとても有意義だったとの声が多くありました。**令和6年度の特別支援教育研修会も、春と秋に開催する予定です。**期日が近づきましたら、各学校へ案内を送付します。多数の御参加をお待ちしています。